



スクールリポート

▶ 学校教育課
☎23-3679

学校生活の
一コマを
紹介



「シニアふれあい活動」

子どもとシニアのふれあい活動を通して

衣笠小学校

衣笠小学校では、田原市教育委員会の協力のもと、平成27年度からシニアふれあい活動を行っています。

目的は、子どもとシニアのふれあい活動を通して「多世代の交流により、子どもの豊かな心を育てること」「シニアの経験を教育に生かすことで生きがいがつくりにつながること」「学校と地域の連携を推進すること」です。

これまででも、地域のシニア世代の方々には、子ども見守り隊や春の遠足・クラブ活動の講師など、協力していただいています。今回は、竹で水鉄砲や笛を作って遊んだり、どんぐりゴマを作ってコマ回し大会で競い合ったりしました。

また、名城大学教授の曾山和彦先生から、名前を呼び合う関係をつくることで、ふれあう活動が充実することを学びました。

これを機に、子どもたちが学校内外で地域の方と互いに名前前で呼び合える関係を構築し、家庭・地域・学校が手を携えて明るくたくましい衣笠っ子を育てていきたいです。



●どんぐりコマ回しで交流



●竹笛作り



「避難所宿泊体験」

防災体験を通して自助意識を育てる

清田小学校



●段ボールで避難スペースの区画作り



●狭い避難所での宿泊体験

清田小学校では、平成25年度から防災教育の一環として、夏休みに5・6年生対象の避難所宿泊体験を実施しています。大津波警報が発令された場合を想定し、子どもたちは非常持ち出し袋と宿泊用品を持参して学校に集まり、1泊2日の避難生活擬似体験が始まります。

起震車「なまず号」での地震体験、避難場所の配置決めと段ボールでの区画設置、通学団別防災マップ作り、防災関係の講演会、非常食の試食、非常持ち出し袋の中身点検、赤十字奉仕団による避難生活支援の講習などさまざまな活動を行います。

これらの活動を通して、子どもたちからは「津波の恐ろしさや避難生活のつらさが分かりました」「地震が本当に起きたときのために準備をしておきたいです」などの感想が聞かれました。このように子どもたちの防災意識は、確実に高まっています。子どもたちの防災意識の向上は、保護者や地域全体の防災意識の向上にもつながっていくと思います。

本年度は、暴風警報発令時の避難を想定した避難所宿泊体験を予定しています。